

令和 6 年度第 2 回（第 14 回）
おいらせ町百石高等学校魅力アップ推進協議会 会議録

日 時	令和 6 年 1 1 月 1 4 日（火） 9 時 0 0 分～1 0 時 5 5 分	
場 所	おいらせ町役場 本庁舎 2 0 3 会議室	
案 件	(1) 学力向上支援策について	
出席者	【出席者】 8 人 会 長：澤上 訓 （一財）百石高等学校後援会 理事長 副会長：吉田 長一 社会福祉法人 奥入瀬会 事務長 委 員：川村 秀典 百石高等学校 PTA 会長 委 員：志村 博 青森県立百石高等学校 校長 委 員：松林 義一 おいらせ町教育委員会 教育長 委 員：村田 瑞樹 おいらせ町連合 PTA 代表（下田小） 委 員：中村 淳悦 元高校事務長 委 員：楨 公彦 三沢公共職業安定所 所長 【欠席者】 1 人 委 員：田嶋 裕行 シルバー人材センター	
	事務局	政策推進課 課長 田中 貴重 課長補佐 川原 真栄子 主査 三浦 弘嗣
	傍聴者数	0 名

● 2. 会長あいさつ

発言者	発言内容
会長	皆さん、おはようございます。 朝早い時間にも関わらず、こうして 5 分前にもう既に本日出席される方々がお揃いになったってということで、本当にもうありがたく感謝申し上げます。 前回の 9 月 3 日の会議では、今年度の取り組みのところで意見がたくさんありましてそれで、進行係として時間を使い果たしてしまって迷惑をかけた。そう思っております。 特に松林委員の方からこの会議の目的には高校への入学希望者を増やすことなんだと、中学生から選んでもらうためにはどうするかっていう部分について、端を発していただきまして、それぞれ皆様方のい

	ろんな角度からですね、中学生への PR であるとか、連携とか、高校卒業後の進路の周知であるとか、部活動への支援であるとか、いろんなご意見を頂戴いたしました。 本日はそれらを今一度この意見をもう少しまとめてみて、そこから新たに取り組むものとして発展していければいいなと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。
--	--

●案件（1）学力向上支援策案について	
発言者	発言内容
事務局	～資料説明～
会長	前回の意見をもう一度踏まえてでも、結構でございますので、今一度第 1 回会議での意見を思い出していただいて、今から前回の続きを検討いただければなと思っております。 事務局に再度質問とかご意見とかありましたら、皆さんいかがでしょうか？
委員	いただいた案内文は学力向上支援について協議するような記載であったが、会議資料を見ると前回の会議の中で出た PR や連携、部活動への支援などの記載もあり、今回の会議では学力向上支援策について協議するということでしょうか。
事務局	前回の会議の中で学力向上支援策という部分にフォーカスした意見もあり、その部分が足りていなかったと思いましたので第 2 回の会議を開催しました。 第 1 回の会議の意見を抜粋していく中で、高校生活の PR などの意見もありましたので、学力向上支援策に限らず高校の入学志望者数が増える、もしくは高校が存続していけるような取り組みについて協議できればと思っております。
会長	やはりこれから中学生に選んでもらうという時期の真っ只中だと思いますが、こういった PR の仕方とかそういうものがあるのかということも検討いただければなと思っています。 それと同時に学力向上支援策も併せて進めていきたいと思っています。 最初に中学生の心をつかむためには何をやるべきなのかという部分についてもう一度お話していただければと思います。 前回の会議で松林委員の話が良かったと思っていますのでもう一度お話していただければと思います。
委員	今の時期から中学校では進路学習としていろいろな高校の先生に来ていただいて説明する機会を設けます。 大体は普通科と工業、農業や商業などの様々な校種の高校に集まっ

	ていただいて、高校には様々な種類があるとか高校ではこういう勉強をしますという説明をします。 私立では部活動に特色がありますので、ここに来たらこのような活動ができますという宣伝をします。しかし、どうしても県立高校の普通科は特色を出すことがなかなか難しいです。 三者面談の中で話題として出るのは、ここの高校を卒業した後どうなるのかということです。本人の希望にもよりますが、高校を卒業したらすぐに社会に出て働きたいのか、できれば大学に行きたいという子もいますし、あるいは短大や専門学校という様々な選択肢があるわけですね。 やはり高校を卒業したらどうなるのか。私立高校はそこが命ですので、そこで中学生に見向きされなければ死活問題です。県立高校は県のお金で運営されていますが、私立高校はそうはいきません。やはり中学校での説明の際には熱の入りが若干違うなと感じます。 そこで、私が思うに高校の存続のために、振り向いてもらうためには、高校に進んだら勉強も一生懸命できますということを PR する必要があります。それから、勉強だけでなく、部活動も少しやれるチャンスがあれば良いと思います。 今人数が少なく部活動もなかなかできません。対外試合はできないと思いますが、愛好会として楽しむことはできるかもしれません。また、例えば地域の方々と野球をやっている方が、百石高校に行って一緒に混ざって試合に参加させてみるとか、そういう機会があれば、野球が好きでチームとしては成り立たなくても活動ができるということが可能かと思います。
会長	ありがとうございます。 中学生への PR について皆さんどうでしょうか。 村田委員は前回、就職と進学割合などについて聞いていましたがどうでしょうか。
委員	先ほど教育長が言っていたように部活と勉強と卒業後の進路の話が出たので、中学生にアピールするのであれば一つの方法だけでなく、いろいろな方向のものを同時にアピールした方が良いと思います。 現在行っている学力向上支援の取り組みはこれで良いと思いますが、通学の利便性のところで前回の会議でも出た交通費の補助も良いと思います。通学のしやすい環境もアピールしても良いかと思います。 現在行っている学力向上支援策も何年もやってきているのでこれ以上はなかなか手づまりかと思っています。模擬試験の試験料や塾へ通うための補助を使うかどうかは生徒の判断でこれ以上は詰めれないと思っ

	ています。学力向上支援策以外のところで中学校とか外にアピールしていった方がより中学生が選ぶ材料になるかと思います。
会長	ありがとうございます。 川村委員も部活動について前回の会議で話題として出していましたがいかがでしょうか。
委員	学力についても PR することはできると思いますが、百石高校が他校と違うものがあるのか。百石高校はアルバイトが届け出制ということでそこをアピールしても良いと思います。届け出するだけでアルバイトができるということは親も興味を持つと思います。 やはり、他校と何か違うものをやっていますよということをアピールしていけば良いと思います。
会長	ありがとうございます。 槇さんいかがでしょうか。
委員	中学校に行って PR するのもなかなか難しいと思うのでホームページやInstagramなどを活用していく方が良いと思います。 そういう部分を強化していくのも一つの方法だと思います。
会長	ありがとうございます。 中学生がすぐ次高校生になるっていうのが自然の流れですけども、やっぱりその前から例えば小学生にも高校の良さとかそういうものを流し、そういう体験をさせるとかいろんな形で結びつきを強くしておいた方が中学校行っていきなり言われてもまだ、中学生も選択するときには、簡単に受け入れやすいものになっていくのではないかと何となく感じました。 これまで皆様方からお話をいただきましたけれども、志村委員今までのご意見等を受けてですね、高校として、すべきという部分をお話いただければと思います。
委員	今までの支援ももちろん感謝してますし、ご意見が出ているものも、取り組めるものはすぐにでも実行をしていく。また来年度に繋げていかなきゃならないものであれば、来年度に繋げていく。 それから百石高校に入ってもらうためには中学生にアピールしていかなきゃならないですし、長い目で見れば小学生、町民の皆さんっていうところに興味を持ってもらう。 当面、今の中学校3年生に対してどうアピールしていくかっていうところをやるものはやっていこうというふうに思っていますし、あとは小学生向けにやっていけるか。 その中で先ほどのInstagramやホームページの部分もやっぱり変えていかなきゃいけないなというふうに思っています。

	インスタの方は、私の方からいろいろ学校であったものを送って町からの発信という形で今やってもらっているので、高校生に対してっていうよりは、公的に見える学校の活動を1年間の活動が一通り見ればと思って今やっているところです。 あと昨日2年生対象に進路に関する講習を行いました。 高校の11月の修学旅行というのはちょうど高校生3年間の中では折り返しのところ、中間点のところでそれまでは少し学校生活を楽しむというふうな部分に持ってきていたところですが、この折り返しで、今度は自分の進路を考えるということで、5時間目6時間目使って講師の方に来てもらって、進路の決め方や大学の奨学金などの説明を受けながら、各自が興味がある分野のスペシャリストに来てもらって話を聞くという形でやっていました。 また、本校に在籍している生徒の出身中学校のところにはアピールしていきました。今年ちょっと私が体調崩したのとか、出張がちょっと非常に多くて、ちょっと今行けてなくて何とか急遽教育長と話して、町の中学校、それから市川中、二中や堀中とか通いやすい中学校にアピールをしようとか何とか今月中にできればと思っています。
会長	ありがとうございます。 今年度、百石高校生が自ら作成した動画を視聴することができますので、この機会に皆さんに見ていただきたい。
委員	事務局で準備をしている間に少し良いですか。 前から気になっていたのですが、参考資料として掲載している百石高校支援方針について、県の計画が第2期に切り替わっているの見直しをした方が良いのではないかと。
委員	中村委員のおっしゃる通り現在の見直しの中では、県はすべての科を対象に見ています。 食物調理科はこの間の全国のクッキングコンテストで準優勝し、3年連続メダリストになりました。この実績は全国でもここだけです。 しかしながら、このような実績をアピールしても応募者増につながっていないのが百石高校としてもつらいところです。
委員	県は統廃合のことを考える際は、1次倍率をみています。 どうしても倍率が0.5を切ると食物調理科は三本木農業恵拓高校に近い学科があるのでそちらに吸収されてしまうのではないかと考えています。 また、普通科は2クラスありますので、倍率が0.5を切ると1クラスに減らされると思います。 とにかく、1次倍率を上げていかないとこのままでは存続継続は難

	しいだろうと思っています。 私は、今だからこそ、のんびりした子や勉強で苦勞しても良いと考えている子など様々なタイプの子たちに集まってもらわないといけないと思っています。そうでなければ倍率が1.0に近づかないと思います。勉強で苦勞しても良いと考えている子はどうしても八戸の高校に行ってしまうので、そこの部分を1人でも引き留めるために大学進学の実績を2年に1人でも良いので継続して出していく必要があると思います。いろんなタイプの子が集まらなると1.0に近づかない。
委員	県教育委員会のホームページを見ていて、県立高校の教育改革推進会議などの資料等が掲載されており、それらを見るとこの先5年間で生徒数もどんどん減っていくことになっています。 小規模校が残っていくためには地域の実情や多種多様な学校配置が必要であり、通学環境も配慮されています。 この協議会は行政や地元事業者などが参画していますので、これを生かしながら百石高校を特徴ある学校にできればと考えています。
委員	県全体の話をすると少子化が進んでいます。 黒石市、平川市とつがる市は市を名乗っていますが、おいらせ町より小中学生の数が少なくなっています。 そうなるとすぐに高校再編の話が出てきます。そのときの高校再編の波に百石高校が飲まれてしまう可能性があります。 高校再編の波が来たときに存続するためにも1次倍率にこだわって、選んでもらえる高校になるしかないと思います。
委員	黒石高校は生徒数が減ってきているが、衛生看護関係の専攻科を設けています。准看護師の資格が取れる体制が整っています。柏木農業高校も周辺は農家が多く、ライスセンターも整備しているので、コメ農家に特化してコメ高校として特徴を持ってやっているので、特徴を持つことが大事だと思います。 百石高校は様々な人が集まることが特徴になると思いますが、来ていただいたからにはしっかりと育てて出口をしっかりとする方が大事だと思います。
委員	実業系の学科が特色を出せるのは当たり前で県の立場からすると手間暇とお金がかかる学科の開設は認めてくれません。普通科の中で特色を出していくためにはコース別の勉強の教育課程を作れないのでしょうか。
会長	本当に難しい岐路に立っていると思います。
事務局	～動画放映～
会長	この動画は中学生や小学生に伝わりやすい感じの内容になっています。

	すね。非常に生徒から伝えたいものが伝わっている気がします。 この動画はどこで見られますか。
事務局	完成後に町公式 YouTube チャンネルにアップ予定です。
委員	見れるところがわからないと伝わらないと思いますのでどこから見られるか周知していただくとありますがすごくよかったと思います。
委員	高校の周知活動で使えると思いますので、どんどん様々な場面で活用していただければと思います。
委員	この動画の著作権は町にありますので、YouTube にアップされればどんどん使用したいと思います。
委員	この動画を使えるのであれば中学校でも放映して高校の周知活動をしていただければと思います。
会長	それでは、学力向上支援策について中村委員からお話していただければと思います。
委員	夏休みや冬休みを活用してインターンシップをイオンモール下田で行えれば良いと思います。 インターンシップを行うことで社会に出る準備や勉強ができると思います。 企業と高校生をつなぐ活動を地域おこし協力隊に担っていただければと思います。
事務局	地域おこし協力隊の進捗状況は現在、応募期間は終了し、委託先の事業者を通じて選考会を行っています。
委員	学力向上支援策について、現在の学習塾に費用の補助率を上げてみてはどうでしょうか。また、英検の受験費用の実費分を4級くらいからできれば良いと思います。 仮に受験者数が増えて1人でも合格者が増えればアピール材料になるかと思います。 模擬試験の受験も回数を増やしても良いと思いますし、試験の前に学校の先生がテキストを使用して勉強時間を学校の中で設けてから模擬試験を受けることでテストを受ける雰囲気づくりをしながら学力広報に結び付けられればと思います。
委員	高校の後援会がバスを契約して通学バスを準備できないものでしょうか。
事務局	見積をとるなど検討してみます。